

# 『言語資源ワークショップ』 発表論文集原稿執筆要領

原稿執筆に関しましては見本（Word, LaTeXファイル）も掲載していますので、そちらをお使いください。

## 1. ページ設定

- MS-Wordのページ設定項目を示します。
    - ▶ 余白：上 33 mm、下 26 mm、左 30 mm、右 30 mm
    - ▶ とじしろ：0 mm
    - ▶ 印刷形式：標準
    - ▶ 印刷の向き：縦
    - ▶ 文字数と行数の指定：行数だけを指定する
    - ▶ 行送り：18 pt
- P. 4の「補足1. 余白、とじしろ、印刷形式、印刷の向き、段組み、行間の確認の仕方」をご参照ください。

## 2. 執筆分量

- A4（用紙サイズはA4厳守）で4枚以上（奇数ページでも構いません）

## 3. タイトル及び著者情報

- 和文タイトル：14ポイント、ゴシック、Bold
- 英文タイトル：14ポイント、Time New Roman (Macの場合はTimes)、Bold
- P. 4の「補足2. 語頭を大文字にするもの、小文字にするもの」をご参照ください。
- 著者情報：10.5ポイント、和文は明朝、英文は Times New Roman (Macの場合は Times)
- 所属：

氏名（所属機関）

例：〇〇△△子（××大学□□学部） ※肩書きは不要

- 共著の場合は、原則として一人1行を使って書いて下さい。著者の所属が同じ場合は1行にまとめてもかまいません。

例1：

〇〇△△子（××大学□□学部）

〇〇△△夫（〇〇大学××学部）

〇〇△△郎（\*\*研究所）

例2：(所属が同じ著者の場合)

〇〇△子、□□〇夫、××▽郎（\*\*大学@@学部）

- 著者の連絡先として、メールアドレスを冒頭のページの脚注に記載してもしなくてもかまいません。ワークショップ開始1週間前に原稿をWEB上で公開しますが原稿中の@を別の文字に変えたり、メールアドレスを画像に変えたりしてメールアドレスが収集されないような工夫をされることをおすすめします。

## 4. 要旨

- 本文の前（英文による所属情報のあと）に要旨をお書きください。
- 分量は400字以内。使用言語は本文と同じ言語です。
- フォントは10.5ポイント。行間は14ポイント。

## 5. 本文

- 1段組み、行間は16ポイント
- 本文のフォントは10.5ポイント、和文は明朝、英文はTimes (New Roman)
- 見出しのフォントは10.5ポイント、ゴシック（見本MS-Wordの「スタイル」で「見出し2」に設定）
- 文献の引用は、「著者の姓(出版年)」でおこないます。同一著者による同一年の文献は、「山田(2001a)」のようにアルファベット小文字を添えて区別します。
- 見出しの深さは、整数で3段階まで。それ以上を必要とする場合はアルファベットの大文字を使って下さい。具体的には、以下の例を参照してください。

### 6. コーパスの公開

#### 6.1 公開形式

##### 6.1.1 無償オンライン公開

##### 6.1.2 有償オンライン公開

A ヒットした全サンプルのダウンロードが可能

B 前後の文脈を最大 100字程度まで表示可能

C 正規表現を利用可能

##### 6.1.3 DVDによる公開

##### 6.1.4 収入の用途

#### 6.2 著作権処理の現状

## 6. ページ番号

- ページ番号は入れないでください。

## 7. 図表

- 図表の前後は1行開けて下さい。
- 表のタイトルは表の上、図のタイトルは図の下に配置してください。

## 8. 注

- 注を入れる場合は、文書末でなく、各ページの脚注の形式を用いてください。

## 9. 謝辞

- 謝辞は本文の後、文献の前において下さい。「謝辞」の見出しは、ゴシック、10.5ポイント、中央寄せにしてください。

## 10. 文献

- 文献の位置は、文書末に「文献」「参考文献」などの見出しを付けて配置して下さい。「文献」等の見出しは、ゴシック、10.5ポイント、中央寄せにしてください。
- 文献情報の書式を以下に例示します。以下に指定がない情報は適宜工夫してください。
- 文献はすべて全角1文字分「ひきだしインデント」にします（つまり情報が複数行にわたる場合、2行目以降の左端を1字分インデント）。
- 論文

著者姓名（出版年）「論文タイトル」掲載誌, 巻:号, pp. 開始頁-終了頁.

巻号は「11巻3号」もしくは「11:3」のように表示します。

ページ情報の冒頭には必ず「pp.」をつけます。

- 共著論文著者姓名を全角・（中黒）で区切ります。著者姓名・著者姓名（出版年）4名以上の共著文献は必要に応じて3番目まで姓名を表示し、以下を「他」としてもかまいません。

開高健・吉村昭（2000）

開高健・吉村昭・河野六郎（2003）

開高健・吉村昭・河野六郎他（2005）

- 単行本

著者姓名（出版年）『本のタイトル』出版社.

- 英文文献

著者の姓名は、名姓の順で表示します。

Ken Kaikou, and Akira Yoshimura (2000)

Ken Kaikou, Akira Yoshimura, and Rokuro Kouno (2003) Ken Kaikou, Akira

Yoshimura, Rokuro Kouno et al. (2005)

- 英文の単行本タイトル、雑誌名、予稿集タイトルはイタリックにします。

## 11. URL

- 文献がインターネット上にのみ存在する場合は、文献欄にURLを記入します。

前川喜久雄（2007）「特定領域研究『日本語コーパス』—目標、進捗状況、そして夢—」 <http://doi.org/10.15084/00003340>

- 出版されている文献がインターネットからダウンロード可能な場合は通常の文献情報の末尾に以下のように表示します。

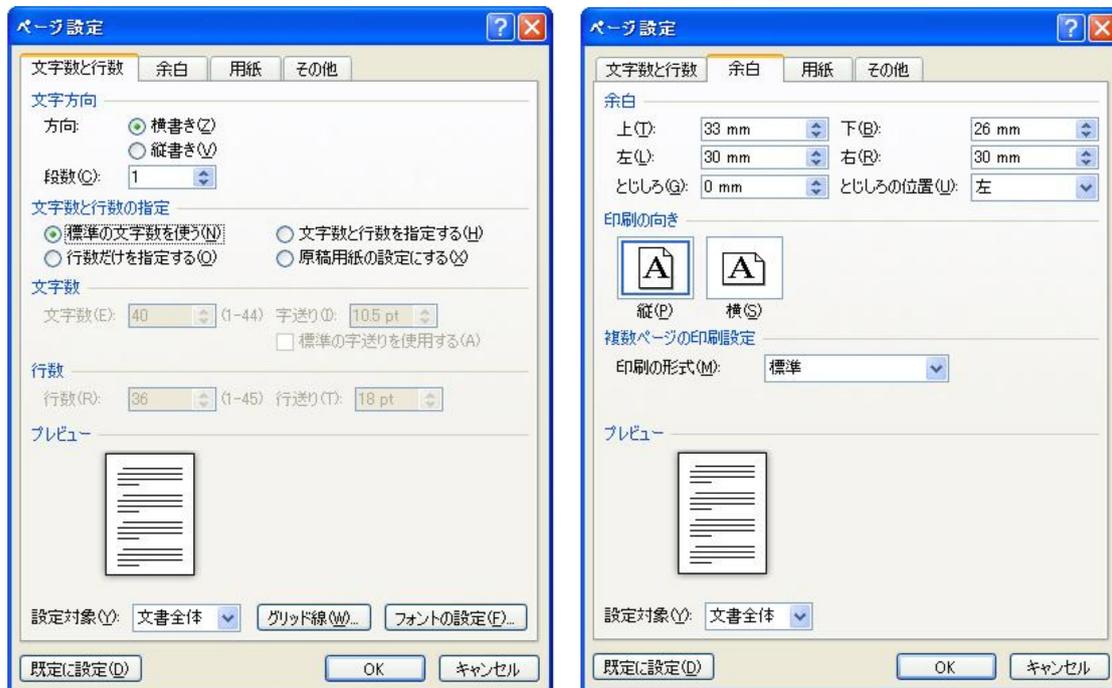
前川喜久雄（2006）「特定領域研究『日本語コーパス』—目標、進捗状況、そして夢—」 特定領域「日本語コーパス」特定領域研究「日本語コーパス」平成18年度公開ワークショップ（研究成果発表会）予稿集, pp. 1-12.

(<http://doi.org/10.15084/00003340> よりダウンロード可能)

- 文献とは別に、情報源となる URL をまとめて記入してもかまいません。その場合、位置は文献の後に置いてください。

## 補足1. 余白、とじしろ、印刷形式、印刷の向き、段組み、行間の確認の仕方

(Windows) レイアウトタブ > グループ右下の矢印(ページ設定)、(Mac) フォーマット > 文書のレイアウトから、文字数と行数タブで段数、行間の設定、余白タブで余白、とじしろ、印刷の向き、印刷形式が確認できます。



## 補足2. 語頭を大文字にするもの、小文字にするもの

### ○大文字にするもの

- 最初の語、最後の語、ハイフンでつながれた語、コロンやダッシュに続く語 (e.g., Impaired, Implications, as in Memory in Hearing-Impaired Children: Implications for Vocabulary) ※1
- 名詞 (e.g., flowers and Europe, as in The Flowers of Europe)
- 代名詞 (e.g., our, as in Save Our Children; that, as in The Mouse That Roared)
- 動詞 (e.g., watches, as in America Watches Television; is, as in What Is Literature?)
- 形容詞 (e.g., ugly, as in The Ugly Duckling; that, as in Who Said That Phrase?)
- 副詞 (e.g., slightly, as in Only Slightly Corrupt; down, as in Go Down, Moses)
- 従属接続詞 (e.g., after, although, as if, as soon as, because, before, if, that, unless, until, when, where, while, as in One If by Land and Anywhere That Chance Leads)

### ○大文字にしないもの

- 冠詞 (a, an, the, as in Under the Bamboo Tree)
- 前置詞 (e.g., against, between, in, of, to, as in The Merchant of Venice and "A Dialogue between the Soul and Body")
- 等位接続詞 (and, but, for, nor, or, so, yet, as in Romeo and Juliet)
- 不定詞の to (as in How to Play Chess)

(参考: MLA Handbook for Writers of Research Papers Sixth Edition、※1のみ  
Publication Manual of the American Psychological Association)

以上